

令和7年度さいたま市立海老沼小学校 第2回学校運営協議会 議事録

1. 日時：令和7年11月18日(木) 11:00～

2. 場所：さいたま市立海老沼小学校 応接室

3. 出席者

豊泉日出夫 様 片柳地区自治会連合会 副会長、南中野自治会 会長

山崎 聡亮 様 青少年育成片柳地区会 会長

赤木 寛治 様 片柳公民館 館長

橋本 道子 様 片柳幼稚園 園長

横山 寛 様 地域防犯ボランティア元代表

古川 明子 様 第二東中学校 校長

森 大樹 様 民生委員、主任児童委員

佐藤ゆかり 様 海老沼小学校 PTA 副会長

行本真祐子 様 海老沼小学校 PTA 副会長（会長代理）

山崎 総司 様 前海老沼小学校 PTA 会長

入澤真理香 海老沼小学校 校長

其原 純也 海老沼小学校 教頭

小林 明子 海老沼小学校 学校地域連携コーディネーター

以上 13名参加

山上 明彦 様 欠席

中山 望 様 欠席

【司会進行：教頭】

1. あいさつ（運営協議会会長、校長）

豊泉運営協議会会長より

中山神社（児童表彰の件）、性暴力、不登校、いじめ、日大グラウンド跡地開発について

2. 学校運営及び取組実践の中間報告

① 予算執行状況→具体的な数字などは第3回学校運営協議会で報告

2学期の活用実績

- ・クーラー分解清掃
- ・ポータブルクーラーの購入
- ・学校東側のフェンスに門を設置

子ども達の学校生活が
快適になるよう活用

② 不登校・いじめの現状

→各学校で教育委員会へ毎月報告。10月末時点での報告。

- ・Sola（そら）ルームの利用については、申告なしに使用している場合もあり。
- ・長期欠席児童数は、昨年と比べてやや少なくなっている。
- ・6年生の当該児童については、進学先の中学校に申し送りをしていく。

③ 職員の状況

ニュースで報じられているように、本校でも人が足りない・代わりもいない状況

④ 全国学力・学習状況調査の結果

- ・国語→概ね平均
- ・算数→平均に届いていないが昨年に比べて横ばい
- ・理科→昨年は実施なし。概ね平均

<質問紙調査>

- ・昨年の協議委員会で良い点として挙げられていた同じ項目が今回も3pt以上を上回る回答として挙がった
- ・今回新たに「学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができた」と思う児童が増えた
⇒学びに繋がる姿勢になってきているのではと感じる
- ・一方で、昨年同様に、以下のことが結果から読み取れる

- ✓学校以外での学習時間が少ない
- ✓活字に触れる機会が少ない

⇒（学校指導として）宿題に音やドリル等を取り入れているが、学力・学習状況調査の結果が伴っていない

要因 宿題忘れ＝ゲームや動画視聴に時間を取られてしまう。

【ご意見】

（地域）学校教育について。『一律にできる＝いい子』という昔の価値観は、現代における価値の多様化にあてはまらなくなっている。公立学校の教育が時代と合っていないと感じる。教育委員会や学校の先生はどう考えているのか？

（学校）保護者の考え方も変わってきている。例）ホームスクーリング

学校側として家庭の意向を受け入れざるを得ないのが実情。

また、令和8年4月に不登校児童生徒に配慮した「学びの多様化学校」が開校予定。



<学びの多様化学校について>

（地域）20年前と同じことを繰り返している。集団で扱う側が無力であり、家で囲むことで何が失われたのか…。学校教育において「何が失われたのか？」を考える必要がある。現状を認識し、良いところ／失われたものを考えていかないと変わらない。また学力においても、できる子とできない子の山を具体的に考える必要があるのでは？

（学校）学校ごとで分析をしている。本校はできる子の山をできない子が引っ張っている。具体例として、できない子の中には、テストの受けた／答え方がわからないという

子もいる。

(地域) 30代の大人でも文章を作るのが下手。デジタル化された文字を追っているだけで読解ができていない。文章を作れない原因になっているようだ。

(学校) 学校の取組として「15分モジュール」を紙で取組んでいるが、子ども達はデジタル形式を好んでいる

【補足】モジュール学習

10－15分程度の短い時間を単位として、繰り返し指導を行う短時間学習のこと。基本的な知識やスキルを身につけるための反復学習などに導入され、その効果が認められている。

(学校) 本校児童は自己肯定感がとても高いが、実力が伴っていない。その辺りを伸ばしていきたいと考える。

3. 中間報告に基づいた熟議（学校関係者評価含む）

<学校として運営協議会の皆様にご意見いただきたいこと>

① 地域と学校の協働活動の具体案

■不登校児童（保護者）サポート

(地域) 前回の協議会で話題に挙げた近所の不登校児童について、将来的に非行に走らないか心配。相談に乗りたいと思うが、どう声を掛けて良いか悩む。学校・学童での様子が分かれば教えて欲しい。

(学校) 個人情報保護法の観点から、詳細をすべて開示することは難しいが、当該とされる児童は少しずつ戻りつつある。また学校としては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、児童相談所とつなげるなどして家庭をサポートしている。

(地コ) 経験から、保護者から相談の声をあげるのは難しい。だからこそ、地域の方から声を掛けてもらえることは、社会との繋がりを感じることができて嬉しく思っていた。声掛けで十分。（相談をするという）結果を急がないで欲しい。

(地域) 不登校などの家庭は、警戒感が強く見守りで十分なのだろう。また社会的な繋がりのために、結果を急ぐよりも数年先の結果につながるような活動にしたい

■防犯ボランティアの確保

(地域) 新規防犯ボランティアの説明会は、参加者は2名であったが成功だったと思う。新規獲得については声を掛け続けることしかないのではないかと。一方で、保護者が担当日に現れないケースがある。責任感を持って活動して欲しい。

(学校) これまで「学校と教師の業務の3分類」では、「基本的には学校以外が担うべき業務」としていたが、今年度10月に、“基本的には”が削除されたことで、①登下校時の通学路における日常的な見守り活動等は、より地域と保護者中心で進める活動と位置付けられている。

- ② 登下校の安全な見守りを進めるため運営協議会からどんな発信をするか
⇒具体的な発信内容は、引き続き、議論が必要のようだが、要点は以下の通り。
✓数年先の結果につなげるために、一定の距離を保った「見守り」
✓地域と保護者の連携方法と、学校のかかわり方

4. 連絡

第3回学校運営協議会 令和8年2月半ば頃を予定

5. 閉会の言葉（運営協議会長）

- ・児童との交流（給食）